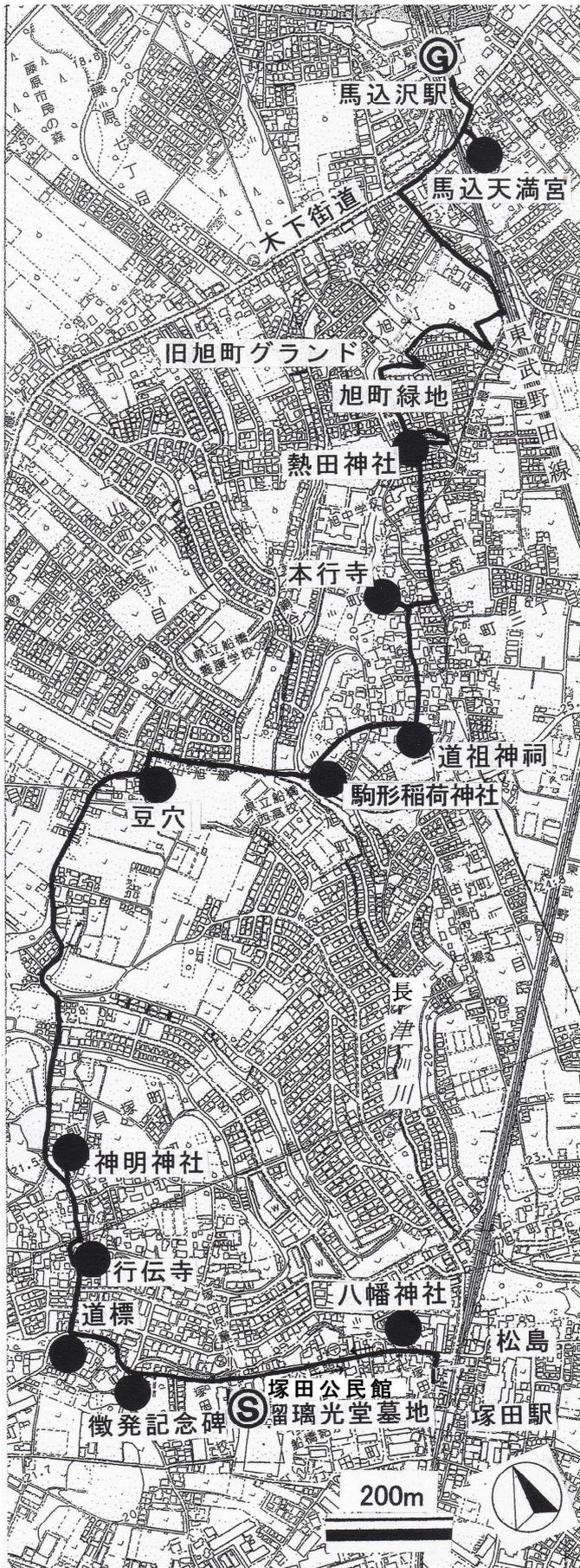


塚田ふしぎ探遊 ～前貝塚・旭町を歩く見る～

約 3.9 km 約 60 分



令和3年(2021)10・29、11・12 案内:山本 稔
前貝塚の集落は台地の南側斜面にありますが、後貝塚は台地上にあります。また、前貝塚は水田が広いのですが、後貝塚は集落近くには少なく、長津川調節池付近など他所に水田を持っていました。台地上の集落は中世城にかかわりが考えられる場合もありますが、貝塚には城館はありません。

昭和12年(1937)塚田村(大字前貝塚、後貝塚、行田新田)は、他の二町(船橋、葛飾)二村(法典、八栄)とともに船橋市になりました。昭和15年(1940)に新町名設定をすることになったとき、旭町は「後貝塚」から改称した町名です。

後貝塚が「旭」に改名したのは、「後」地名を避ける希望があったようで、鎮守熱田神社の祭日「九日」をとって「旭」とし、それとともに誕生船橋市が旭日の如く発展することを祈念して決定したものといわれます。

地名に前・後とか上・下などがつくのは、たくさんの例がありますが、二つの地域の位置関係あるいは開かれた時期の違いによることが多いようです。

また、後貝塚は江戸時代の初めころ鎌倉の竹内勘兵衛というものが草分けとなったという開村の伝説があります。元和三年(一六一七)ころと思われる「下総国図」には「前貝塚」と「貝塚」の記入があります。

前貝塚堀込(ほりごめ)貝塚(塚田公民館周辺)

塚田小学校までも含む 300 m²が縄文遺跡範囲です。約 8500~7000 年前の縄文早期の遺跡から、約 4500~4000 年前の縄文時代中期から後期のものとされる竪穴式住居集落跡や貝塚などが発掘されています。

塚田小学校

明治 22 年(1889)行伝寺境内に創立された

塚田尋常小学校(P 3 参照)は、より広い敷地を求めて昭和 3 年 (1928) 現在地へ新築移転しました。6 年後の卒業生が敷地の西南隅に銀杏の木を記念植樹しました。この銀杏の木は今グラウンドの中に立っています。

昭和 14 年 (1939) 法典尋常高等小学校と合併し、法田尋常高等小学校第二校舎となり、昭和 20 年、塚田国民学校として再独立します。戦後は塚田小学校となり現在に至ります。

塚田駅

大正 12 年 (1923)12 月 27 日、法典駅 (現馬込沢駅) とともに開業した北総鉄道 (現東武鉄道・現在の北総鉄道とは無関係) 野田線の駅です。地図によっては「松島駅」と注記されています。

松島

公民館、塚田小前の道を右に向かいます。この辺りは、「松島」といいます。「松島」は前貝塚の村内村で、鎮守の八幡神社や御堂を持っています。「松島」と名づけた理由はよくわかりませんが、地域の人のお話では長津川沿いの台地上に松林が続いていたそうです。



八幡神社

八幡神社の前に庚申塔が数基立っています。前貝塚の本村から御祭神三十番神 (さんじゅうばんじん) の内の一つを分祀して、この八幡神社を建てたものです。本殿の屋根は最近では珍しい茅葺きで、曲線で形を整えています。

境内にはいろいろな小祠があります。西隣にあるのは松島公民館です。以前はここに御堂があったと思われます。

瑠璃光堂墓地

道の向かいに、瑠璃光堂と墓地があります。この御堂の東側から塚田公民館の手前までは行田町です。

塚田公民館・塚田小方面へもどります。

徴発記念碑

公民館と塚田小学校の前を歩いてやがて坂道を下ります。丁字路の左のところに馬頭塚があります。右端に「徴発記念碑」(写真)があります。明治 29 年 (1896) 11 軒の村から 11 頭の馬が徴発されすべて大陸で斃れたことへの供養碑でもあります。その隣には[戦役徴発馬匹記念碑] (明治 38 年 = 1905) があります



道標 (玄題二万部奉唱供養塔)

台地の裾を回っていくと前貝塚の集落への塚田川の谷を渡るところに来ます。台地の裾に文化 9 年 (1812) の玄題二万部奉唱の供養塔があります。側面を見ると「右行とくみち、左船ばしみち」とあり、道標でもあることがわかります。

行伝寺

正光山行伝寺は、すっかり住宅地化した貝塚川の谷をわたった道から突き当たるような場所にあります。古くからの集落はこの寺の裏側に広がっています。

室町時代の応永2年（1395）に市川の唱行寺の日心住職が創建したといわれます。境内には日蓮宗の守護神となっている七面大明神が祀られています。寺の東となりは塚田村の役場が最初に置かれたところであり、塚田尋常小学校もその隣にありました。



↑ 行伝寺と塚田村役場、塚田尋常小学校
塚田小百周年記念誌(1989)より

神明神社

行伝寺から北へ少し行くと神明神社が深い森に囲まれています。享保元年（1716）の創建で、祭神は天照皇大神です。しかし、本殿には日蓮宗の守護神の三十番神が祀られています。もっともその内の一つを松島の八幡神社に移したといわれます

豆穴（まめあな）

神明神社からさらに道を行くと船橋啓明高校が見えてきます。校庭のあたりの小字は「豆穴」といいます。「豆穴」とはおそらく「狸穴」（まみあな）で、狸の穴という意味です。校庭の西側を回り込んで、船橋方面へ曲がり、長津川の谷を渡ります。この道の付近の小字は「新堤」といいます。後貝塚村から木下街道に出る道です。

駒形稲荷神社

船橋啓明高校を横に見ながら谷を渡ったところに階段があります。その上は駒形稲荷神社です。その由緒は階段下の石碑に刻まれています。伏見稲荷から勧請したそうです。左の坂道を上ると後貝塚村の集落に入ります。

道祖神

駒形稲荷神社脇の道を上って、少し行くと丁字路の道の角に道六神（道祖神・文政7年＝1824）の祠があります。足の悪い人や耳の悪い人に靈験があるそうです。道祖神は村の内外を分ける目印で、ここが「ムラ」の入口になります。



旭町道祖神→

本行寺

道祖神から集落の道を行くと山門（右写真）が見えます。日蓮宗正法山本行寺で、僧日真が嘉吉年間（1441～1444）に開山したそうです。

江戸時代の後貝塚村の地頭は遠山小右衛門景政で、慶長7年（1602）にこの地を賜り、明治の初めまでその知行地でした。本行寺はその菩提寺で、この近くに陣屋があったようです。東の方にある共同墓地の近くに遠山塚がありました。それが景政と二代目景次の墓で、現在は境内に移っています。



本堂左手の窓際に半鐘があります。宝暦3年（1753）に江戸の鋳物師西村和泉守が鋳造した半鐘です。江戸時代の半鐘は市内に7個あります。

寺を出て左へ道なりに行くと鳥居が見えてきます。鳥居をくぐると、道は石段を下がります。そこは小さな谷間です。ここには昔、泉があったそうです。日照りが続くと、この泉から生け簀に水をいれて里人が集まり、本行寺の住職が裸になって祈祷をしたという話があります。

熱田神社

石段を上ると後貝塚の鎮守熱田神社です。名古屋の熱田神宮の分祠です。

現在の本殿は東に向っていますが、以前はこの階段を上ってきた正面にありました。火災にあい、現在地に昭和51年（1976）再建したものです。正面に狛犬があります。台石は新しいものですが昭和4年（1929）に奉納されました。その奥の小さな狛犬（右写真）は天保9年（1838）のもので、旧社殿跡には改築記念碑が建てられています。



後貝塚村は明治22年（1889）に塚田村の大字となり、昭和12年4月に船橋市が発足し、昭和15年1月1日に「旭町」に改名しました。その理由として鎮守熱田神社の祭礼日が10月9日であることから、「旭」としたと言われます。

旭町緑地

神社を出て左へ回り込んで裏手に出ると「旭町緑地」の表示があります。道の左手は長津川の谷斜面が続きます。旭町緑地で、このあたりでは貴重な散策路になっています。

旧旭町グラウンド

緑地の東端から階段を下りて左へ行きます。周辺は切り立った崖が続いています。ここは長津川の最上流地点ですが、ほかと異なることは広い低地があることです。ここの小字は「神ノ後」といいます。「神」とは熱田神社のことです。

この長津川の谷頭は湧水が盛んで台地が侵食され広い谷が出来たものです。泥深いところでしたから、長く水田化が遅れ、水田化した後も長く続かず、荒地として残っていたのです。ここが長く旭町グラウンドといわれ、市民の運動場になっていたのは地盤が軟弱であったからです。現在は地盤を固めた上で住宅地に変貌しています。現在でも東隅には湧水池があり公園になっています。

木下街道

坂道を上って行くと木下街道(主要地方道市川印西線)です。銚子道・鮮街道とも呼ばれ、江戸時代の産業道路・観光道路です。明治42年(1909)から大正7年(1918)までは東葛人車鉄道(とうかつじんしゃてつどう)が貨客を運んでいました。

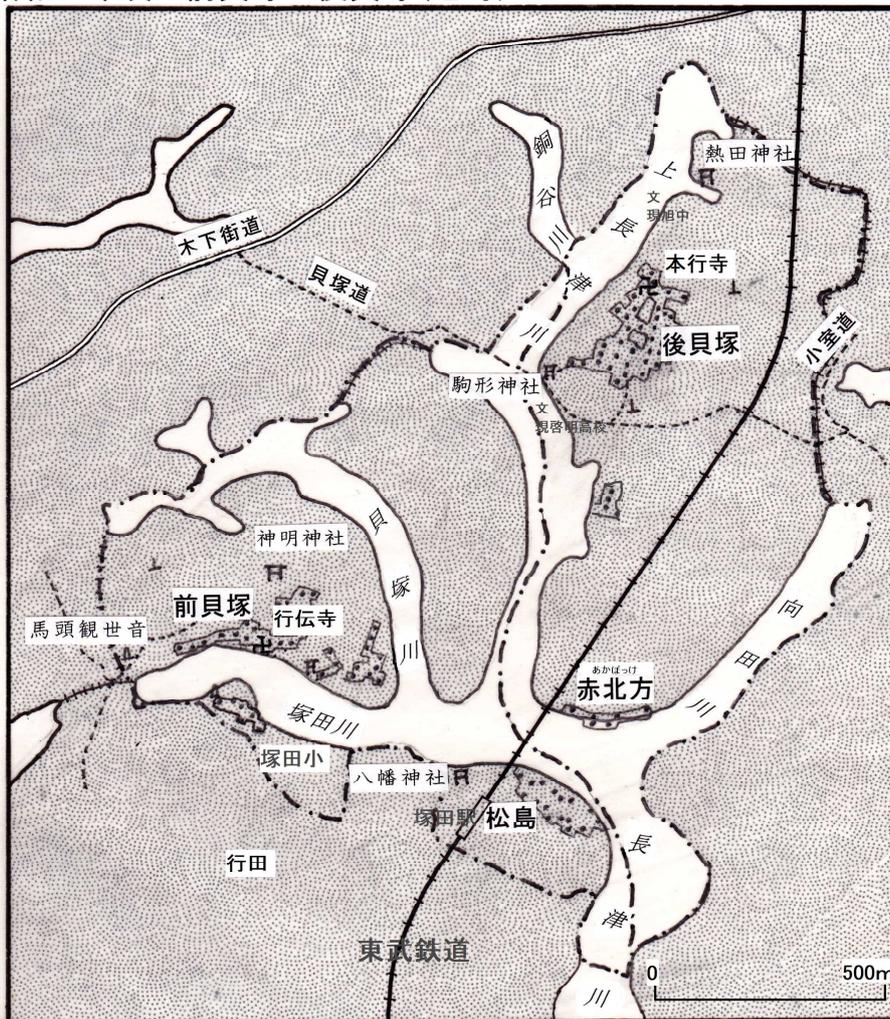
馬込天満宮

東武線の踏切を渡った右手に馬込天満宮があります。木下街道を見下ろす格好の場所に馬込の鎮守天満宮はあるのですが、もとは市営馬込霊園の辺りにあったようです。境内にある大正9年(1920)の改築記念碑は上山町の起こりについて延宝2年(1674)藤原正清というものが部族をつれてここに入植し、上山新田を開いたと記しています。

馬込沢駅㊤

天満宮から階段を下りて県道を渡るとすぐ馬込沢の駅です。東武鉄道馬込沢駅は大正12年(1923)2月に北総鉄道**法典駅**として開業しました。その後、総武鉄道に改称、昭和18年(1943)には東武鉄道に合併して現在に至っています。駅名が馬込沢駅となったのは、昭和13年(1938)4月でした。その前年に法典村が船橋市になったことによります。

昭和30年頃の前貝塚・後貝塚(旭町)



長津川に流れ込む川が谷を作り出し、谷に沿うように集落が成立しています。

松島集落は前貝塚の分村です。赤北方集落は後貝塚(現旭町)の分村です。

「ボッケ」は「ハケ」「ホケ」「ガケ」などと同じく崖地形をさします。「赤」は関東ローム層の赤土をいいます。赤土の見える斜面の麓に集落が成立したところから命名されたと考えられます。

(参考)『船橋の地名を歩く』滝口昭二 崙書房(2014)他